

講演要旨

ICカード切符開発の裏ばなし

神奈川臨海鉄道
常務取締役

三木 彬生 氏 (昭和34年卒)

JRのスイカ開発に携わったとして、二〇〇五年秋にNHKのプロジェクトXに出演した。きょうは、同番組の制作の裏話を中心に、話してみたい。

スイカは、二〇〇一年十一月の発売以来、直線的に売り上げを伸ばし、今年の六月末現在で二千二百二十一万枚を売り上げている。

機能は、プリペイド（前払いで、そのまま切符として自動改札を通過できる）カードのイオカードを、ケースに入れたまま改札を通れるようにした無記名の「スイカイオ」と、記名式定期券の「スイカ定期」の二種類である。

後者は予めお金を入れておくと、定期区間を乗り越した場合同様精算が自動化されるので、どこでも自由に降りることができる。紛失した場合でも未使用残金も含めて再発行される。

電子マネー機能は、平成四年から始まり、現在では二万円から始まり、現在では二万円



【略歴】 昭和34年秋田高校卒、東京大学工学部計数工学科卒、東京大学大学院数物系研究科計数工学専修博士課程修了工学博士、日本国有鉄道入社、同鉄道技術研究所、(財)鉄道総合技術研究所、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社ジェイアール東日本情報システム、日本貨物鉄道株式会社、神奈川臨海鉄道(株)常務取締役

近い店舗で利用が可能になっている。

約二〇分「プロジェクトX」のダイジェスト版放映NHKからプロジェクトX取材の話がきたのは四月ころだった。最初の取材後、しばらくは内容の事実関係を含め、放映に値するかの調査・判断

をしていたらしい。

夏になって「放映が決まったので、再度取材する」と言ってきた。

ストーリーは、最後にスタジオ出演する時に初めて知ることになり「ええっ」と思うことも結構あったが、その時は修正の効かないぐらい完成度が高まっていたので、まあ仕方がないかという気にされてしまった。

典型的なのが、発言そのものは確かにその通りなのだが

「前後の場面が違う」というもの。例えばソニーが開発を中止し、その再開の要因が香港の商談であったというのは事実ではない。再開決定は香港以前に、ソニーの経営判断で行われた。

その他、確約書事件、注射器による電解液注入、タッチアンドゴーの議論などいろいろあるが「嘘とは言えないが場面や登場人物が異なっている」ことが多くあった。

そういう点はあるものの、根本が登場者を善意で扱ってくれているだけに、文句も言いくいし、逆にこの場で、こんな裏話ができる

ネタにもなっている。

最後に、スイカは「なぜ成功したか」と聞かれるが①利用者にとって便利な自動化であった②データが絶対に壊れない仕組みをつけた③JR専用定期の利用者四百万人を、最初から顧客として期待できた④担当者の士気一の四項目である。そして最後には「ラッキーの積み重ねだった」というのが今の本音である。

平成19年度 芸術鑑賞教室

今年度の秋田高校芸術鑑賞教室は、十月十七日(水)に秋田県民会館において、オーケストラの公演Ⅱ写真Ⅱが行われた。



県内音楽担当先生による

弦楽器と管楽器のオーケストラ公演

本校出身者が大勢参加

にとつては、またとない機会であった。メンバーには秋田高校出身者がずらりと顔を並べ、ピアノ協奏曲を熱演した大谷祥子さんをはじめ、コントラバス奏者に本校の松田聡教諭(英語)や多くのOB・OGが協力してくれた。

今回の企画で生徒にもっとも人気があったのは、「指揮者コーナー」で、生徒六名と柴田校長による「運命」への挑戦であったと思う。指揮者が変われば音もテンポも変わり、様子が一変する事を体験した。ベートーベンのピアノ協奏曲第3番も大谷さんの鮮烈な美しい音楽が生徒を引きつけ人気が高かった。本校の校歌がオーケストラで演奏され、いつものサウンドとは違ったすがすがしい「校歌」は生徒の心をとらえた。

レクチャーは指揮者で本校の川口教諭が行い、感動的な全員合唱「大地讃頌」などもあり、大変意義深い演奏会となった。